

第2回制度運用委員会審議内容

主な審議内容 申請団体のプレゼンテーション、審査

(1) 質疑応答

(委員) 大学や他団体との連携に係る施策とはどのようなものか。

(申請者) 各大学の図書室と連携した各種啓発事業の実施や、当センターの図書情報室から大学等への情報提供などを行う予定。

(委員) フィットネスルームの稼働率が比較的高く推移している。利用者の方の性別や年齢層等をお聞きしたい。

(申請者) 琉球舞踊、社交ダンス、バレエ、体づくりなどいろいろな用途で使われリピーターが多い。若い男性の利用が少ないので、今後集客方法を改めて検討したい。

(委員) 今回の事業計画では「ているるカフェ」はどうなるのか。

(申請者) 「ているるカフェ」はリモートワークのための施設として開設したが、利用客が少なかつたため「ているるギャラリー」へと名称を変更し、展示スペース、販促会場、打ち上げ会場など幅広い用途で活用されることを想定している。

(委員) 外国人の方々の施設利用状況はどうか。

(申請者) 外国人学校の卒業式や、同じ出身国の方々が集い交流する場などに活用されている。

(委員) DX化の推進について、システムの新規導入に抵抗がある方々への対応はどのように考えているか。

(申請者) 県内の公民館において住民が高齢化していてもスムーズにDX化が進んだ事例を参考に、数年かけて段階的にDX化していくことで対応する。

(委員) 当センターは県外の方が利用することもできるのか。

(申請者) 九州各県や全国から集まる会合などを沖縄で開催する際の利用が多く、特に学会が多い。

(委員) 株式会社かりゆしエンターテイメントの「1ヶ月休業制度」はどういうものか。また、最近よく話題になるカスタマーハラスメント対策は取られているのか。

(申請者) 「1ヶ月休業制度」は、希望する社員に対して給料の6割を支払って1ヶ月の休業期間を与え、自己啓発やレベルアップのための勉強ができるようにするための制度である。カスタマーハラスメント対策はまだ十二分に取り組めていないが、当センターにも必要であると考えている。

(委員) 新規事業の「人権フォーラムの開催」について、若い人たちを取り込むために演劇を通して啓発活動を行うことは他でも成功事例があると思うが、当センターの理念等を踏まえた上でなければやりっぱなしの事業になってしまう。具体的な事業の提案内容を教えてほ

しい。

(申請者) この事業は「若い人たちが人権や社会問題について学び、演劇の形で発表する場をつくりたい」と人権関連のNPO法人から相談され、彼らの学ぶ場所や居場所づくりも含めて当センターが全面的に応援したいとの考えで実施するもの。現在第1弾を来年2月に実施予定で、次年度はさらに強化していきたい。

(委員) 男性相談事業の対応件数が、取組が始まったばかりの頃と比べると近年大幅に伸びている。地道な啓発事業が根付いた結果であり、頑張っていたきたい。次が指定管理の4期目ということで、馴れ合いにならないよう新しい視点をどんどん前進させていきたい。

(委員) SNSでの情報発信を提案していたが、現在取り組んでいることはあるか。

(申請者) 利用者から「友だち登録」をしていただけるよう準備を進めている。他県の男女共同参画センターでは既にSNSを運用しているので、当センターでも今年から進めていきたい。

(2) 総括

(会長代理) 申請者を指定管理候補者として選定してよいか。

(委員) 異議なし。